



いのち教育月間で

校長 伊勢 明子

杉並の小中学校では、5・6月は、各校で「いのちの教育月間」として命を大切にする取り組みを行っています。その一環として本校では、全校朝会で子供たちにパワーポイントの写真や書画カメラで映した実物のヤゴを見せながら以下の話をしました。

夏の水泳の時期から秋にかけて、プールには、様々な種類のトンボが産卵にやってきます。それらの卵は、水底で秋を過ぎ、寒く厳しい冬を越し、春に向かう日々の中、種類によって違いますが水温が15～20℃になると卵が孵化し、脱皮しながらヤゴになります。ヤゴは、水底に溜まった泥や枯れ葉の中で水中の小さな生物を食べながら成長していきます。そして、6月を過ぎて夏に向かっていく頃、ヤゴは羽化しトンボになり大空に飛び立っていきます。ギンヤンマのヤゴの実物を見せ、それが成長したギンヤンマの写真を見せました。エメラルドグリーンの体、そして透明に近いきれいに光る羽、それは、小さな小さな卵が長い年月をかけて、孵化し幼虫へ、そして、羽化し美しく輝く成虫へと成長した

姿です。大切な命がそこには存在するということを伝えました。

この朝会の後、校長室にギンヤンマを見に来た1年生が「小さな虫にもいのちがあり、どんないのちも大事にしないではいけないんだよね。」と話してくれました。小さい子供にも大切な話が伝わったことをとてもうれしく感じたひとときでした。

写真は、校長室で飼っているギンヤンマのヤゴです。背中に将来、羽になる部分の形がはっきりし盛り上がってきました。もうすぐで羽化する兆候です。羽化は、夜から明け方にかけてすることが多いです。朝、出勤したときギンヤンマが校長室に飛んでいる情景が目につかびます。また、子供たちに知らせたいと思っています。



7月の生活目標「安全に注意して生活しよう」

生活指導部

このところ子供たちが事故や事件に巻き込まれる痛ましい出来事が続いています。「いってきます。」と笑顔で家を出た子供たちが「ただいま。」と元気に戻ってくることは当然のことだと皆さん思っているはずですが。そうであるためにも日頃の危機管理が必要です。学校では、PTAの校外委員さんが中心となり、警察・地域のパトロール隊の協力を得ながら、PMP（ポリス・街角・パトロール隊）活動も始まりました。これからも、子供たちに事件や事故から身を守るためにどうしたらよいか考えさせ行動できるように指導していきます。

また、高井戸小学校には、様々なきまりがあります。このきまりは全員が安全に過ごすために決められています。この機会に御家庭でも「高井戸小のきまり」をお子様と一緒にもう一度見直してみてください。

これから夏休みに入ります。さらに「安全」に関する子供たちの意識を高めていきたいです。